

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B1)

(11) 特許番号

特許第5614748号
(P5614748)

(45) 発行日 平成26年10月29日(2014.10.29)

(24) 登録日 平成26年9月19日(2014.9.19)

(51) Int.Cl.

G06C 1/00 (2006.01)

F I

G06C 1/00

H

請求項の数 1 (全 5 頁)

(21) 出願番号	特願2013-270236 (P2013-270236)	(73) 特許権者	514001986
(22) 出願日	平成25年12月10日(2013.12.10)		村上 邦男
審査請求日	平成26年3月14日(2014.3.14)		東京都江東区南砂7丁目1番25号201
早期審査対象出願		(72) 発明者	村上 邦男
			東京都江東区南砂7丁目1番25号201
		審査官	片岡 利延
		(56) 参考文献	実開昭55-178731 (JP, U)
			実開昭59-058835 (JP, U)
			実開昭59-092923 (JP, U)
			最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 そろばん用スライド式定位点標識ガイド板

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

幅15mm、長さが250mmの細長い2枚の薄板を、1mm間隔をおいて平行に並べ、長手辺の一方の側、即ち長手下辺側における間隔の隙間を、縁から内側へ5mm幅、左右の端から端まで埋める形で、全体を一体的に結合し、長手辺の他方側即ち長手上辺側における左右の端から中央部方向へ、それぞれ40mmの長さを、縁から内側へ5mm幅で隙間を埋めて、ストッパー部を形設し、こうして2枚の薄板の間に残された隙間をスライド溝とする標識ガイド板を形成し、これとは別に、厚さ1mm、幅5mm、長さ85mmの薄板で、スライド定位点脚部を形成し、スライド定位点脚部の中央部に、板面に沿って直交する片方向に、長さ8mm、幅5mmの形で突き出るスライド定位点を形設して、スライド定位点標識を形成し、このスライド定位点標識を、スライド定位点脚部の方からスライド溝の中に挿込み装着し、この様に全体として形成されたスライド式定位点標識ガイド板を、そろばんの手前側の長手枠の壁面に沿って接着結合し、そろばん用スライド式定位点標識ガイド板が使用可能となることを特徴とするそろばん用スライド式定位点標識ガイド板。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、そろばんにおいて、少数計算のときに1の位を定める際に用いるそろばん用スライド式定位点標識ガイド板に関するものである。

【背景技術】

【0002】

そろばんは、左手でしっかり持ち、左右、上下を自由に動かせるように持つのが基本である。

そろばんの学習において、たとえば、検定の3級に入ると少数計算が入り、1の位を定める定位が必要となる。

掛算では右に、割算では左に動かす。

このとき、左手人差指でそろばんの手前枠の上面で、定位点1の位を定めて押えていなければならなかった。

【先行技術文献】

10

【特許文献】

【0003】

【特許文献1】 特開2011-243214号公報

【特許文献2】 特開2009-193038号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

答の定位点を人差指で押えていると、そろばんをしっかりと左手でもっていることができず、計算をするときや、答を記入するときに不便になり、また、速度が遅くなり得点も下がる。

20

本発明は、以上の問題点を解決するためになされたものである。

【課題を解決するための手段】

【0005】

幅15mm、長さが250mmの細長い2枚の薄板を、1mm間隔をおいて平行に並べ、長手辺の一方の側、即ち長手下辺側における間隔の隙間を、縁から内側へ5mm幅、左右の端から端まで埋める形で、全体を一体的に結合し、長手辺の他方側即ち長手上辺側における左右の端から中央部方向へ、それぞれ40mmの長さを、縁から内側へ5mm幅で隙間を埋めて、ストッパー部を形設し、こうして2枚の薄板の間に残された隙間をスライド溝とする標識ガイド板を形成する。

厚さ1mm、幅5mm、長さ85mmの薄板で、スライド定位点脚部を形成し、スライド定位点脚部の中央部に、板面に沿って直交する片方向に、長さ8mm、幅5mmの形で突き出るスライド定位点を形設して、スライド定位点標識を形成する。

30

このスライド定位点標識を、スライド定位点脚部の方からスライド溝の中に挿込み装着する。

この様に全体として形成されたスライド式定位点標識ガイド板を、そろばんの手前側の長手枠の壁面に沿って接着結合し、そろばん用スライド式定位点標識ガイド板が使用可能となる。

以上を特徴とするそろばん用スライド式定位点標識ガイド板である。

【発明の効果】

【0006】

40

スライド式定位点標識ガイド板を、そろばんの手前側の枠壁に取り付けて、右手人差指でスライド定位点を左右に即座に動かして定位をすると、楽に定位点が決まる。

このとき、左手はそのまましっかりそろばんを保持したままでよい。

これにより計算上の効率も上がり、スピード得点も上がる。

このスライド式定位点標識ガイド板は、3級の定位のみならず、下級の掛算、割算からでき、掛算の0（ゼロ）落としや割算の立商位置の間違いをも防ぐことができる。

【図面の簡単な説明】

【0007】

【図1】 そろばんを持って使用している状態を示した平面図である。

【図2】 そろばんに本発明を取り付けた状態を示した斜視図である。

50

【図 3】 本発明を拡大した正面図である。

【図 4】 本発明の平面図である。

【図 5】 本発明の一部であるスライド定位点標識の正面図である。

【発明を実施するための形態】

【0008】

以下、本発明の実施の形態について説明する。

(イ) スライド式定位点標識ガイド板(4)をそろばんの手前側の長手枠(2)の壁面に
接着して取り付ける。

(ロ) スライド定位点標識(8)をスライド溝(5)に差込み右端のストッパー部(6)
まで、スライド定位点標識(8)を移動して、スライド定位点(3)をストッパー(6)に接触させ、停止しておく。

10

(ハ) そろばんで計算を始めるときは、スライド定位点(3)をストッパー部(6)から
、右手人差指でスライド定位点(3)を定位点(1)のところに移動し定位する。

掛算のときは、実(掛けられる数)の1の位から右に、法(掛ける数)の正数の桁数+
(プラス)1桁の数だけスライド定位点(3)を動かし、答の1の位の位置を決める。

割算のときは、実(割られる数)の1の位から左に、法(割る数)の正数の桁数+
(プラス)1桁の数だけスライド定位点(3)を動かし1の位の位置を決める。

このようにスライド定位点(3)を使えばそろばん習得の基本である、そろばんを
左手でしっかり持っていることができ、かつ運珠のときのブレ等を防ぎ、さらに速度
、正確性に多大なる効果がある。

20

【符号の説明】

【0009】

1 定位点

2 枠

3 スライド定位点

4 スライド式定位点標識ガイド版

5 スライド溝

6 ストッパー部

7 スライド定位点脚部

8 スライド定位点標識

30

【要約】

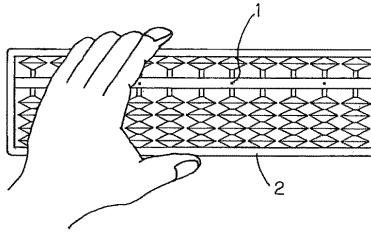
【課題】 そろばん計算において、そろばんを押さえ保持している左手を離すことなく、
定位点を簡単に設定できる方法手段を提供する。

【解決手段】 細長い2枚の薄板を約1mmの間隔を置いて一体に結合し、左右の端にス
トッパー部を設け、隙間に設けたスライド溝を自由に移動するスライド定位点標識を挿入
設置して、スライド式定位点標識ガイド板を形成し、このスライド式定位点標識ガイド板
をそろばんの手前長手枠の壁面に接着結合して利用することを特徴とするスライド式定位
点標識ガイド板。

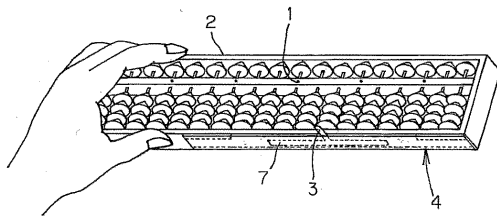
【選択図】 図2

40

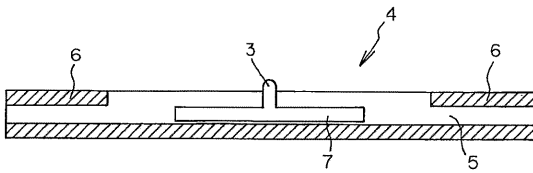
【図 1】



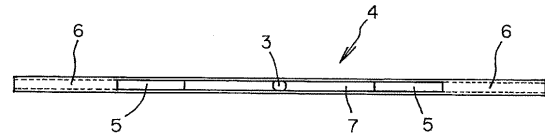
【図 2】



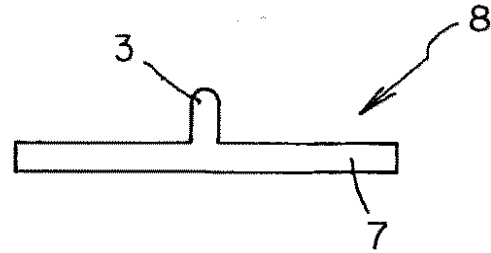
【図 3】



【図 4】



【図 5】



フロントページの続き

(58)調査した分野(Int.Cl. , D B 名)

G 0 6 C 1 / 0 0